第２章

岐阜城・岐阜公園

1 岐阜城

「岐阜」の名を天下にとどろかせたのは戦国時代。織田信長・斎藤道三が岐阜の戦略的重要性を察し、「美濃を制するものは天下を制す」として天下平定をめざす拠点にしたことに始まる。現在でも岐阜市内には、戦国武将たちを始めとするドラマチックな歴史の物語が静かに息づいている。

しばしばNHKの大河ドラマの舞台にもなる。

岐阜城

岐阜城の歴史

岐阜城は、かつて稲葉山城などと呼ばれていた。鎌倉幕府の執事であった二階堂行政がはじめて金華山山頂に砦を築いたと伝えられ、それ以後、何人もの武将が城主となり、戦国時代には、斎藤道三の居城でもあった。特に岐阜城の名を天下に示したのは、永禄10（1567）年８月、不世出の英傑織田信長がこの城を攻略し、この地方一帯を平定、地名を「井口」から「岐阜」と改称し、天下統一の拠点としたことからであった。

しかし、慶長５（1600）年８月、関ヶ原の戦いの前哨戦の際、信長の孫・秀信が西軍に味方したため、東軍に攻め入られ、激戦の末落城。翌年の慶長６（1601）年に岐阜城は廃城となり、天守や櫓などは加納城に移されたと伝えられる。

貞享５（1688）年、松尾芭蕉が岐阜に招かれたとき、ここを訪れ、かつての岐阜城の姿をしのんで「城跡や古井の清水先とはむ」と句を詠んだ。

明治43（1910）年、長い間天守のなかった城跡に復興天守が建設されるが、戦時中の昭和18（1943）年２月に焼失。現在の城は、昭和31（1956）年７月、岐阜城再建期成同盟によって復興された。鉄筋コンクリート造り、３層４階構造で延べ461.77m^2、棟高17.7mの威容を誇り、城内は史料展示室、楼上は展望台となっている。

■岐阜城データ

開館時間		3月16日～10月16日　9時30分～17時30分 10月17日～3月15日　9時30分～16時30分 ※1月1日のみ6時30分～16時30分 ※期間限定で夜間開館あり
住　所		岐阜市天主閣18番地
料　金	岐阜城	大人（16歳以上）200円、小人（4歳以上16歳未満）100円 ※30人以上は団体割引
	ぎふ金華山ロープウェー	大人（中学生以上）片道800円、往復1,300円 小人（4歳以上中学生未満）片道400円、往復650円
駐車場		岐阜公園堤外駐車場　1回310円

■岐阜城略年表

時代	年号(年数)	西暦	城主名	備考
鎌倉	建仁年間	1201～1204	二階堂行政	鎌倉幕府の軍事目的の築城と伝えられる
			佐藤朝光	
			伊賀光宗	
			稲葉光資	
	正元年間	1259～1260	二階堂行藤	関市周辺に領地を持ち、新長谷寺を再興する
室町	応永年間	1394～1428	斎藤利永	土岐氏の執権で城を修築する 文安２（1445）年加納城を築く
			斎藤妙椿	応仁の乱の間、美濃を中心に勢力を拡大 歌人としても有名
			（長井新左衛門尉）	斎藤道三の父親といわれる
	天文年間	1532～1554	斎藤道三	稲葉山城を修築して入城 ※入城年については諸説あり 弘治２（1556）年息子の斎藤義龍と戦い死去
	天文23年	1554	斎藤義龍	永禄４（1561）年５月　病死する(34歳)
	永禄４年	1561	斎藤龍興 （竹中重治）	若年で跡を継ぐが、永禄7年2月竹中半兵衛重治によって一時占拠される 永禄10（1567）年8月織田信長に攻められ開城し、木下藤吉郎（豊臣秀吉）が功名をたてる
	永禄10年	1567	織田信長	尾張小牧から稲葉山城(のち岐阜城)に移り楽市・楽座を行うなど城下町岐阜の発展を図る 天正４（1576）年に安土城に移る 天正10（1582）年本能寺の変で自害する
安土桃山	天正４年	1576	織田信忠	父　信長の跡を継いで、岐阜の繁栄に尽くす 本能寺の変で二条城において、明智光秀に攻められ戦死する
	天正10年	1582	織田(神戸)信孝	信長の三男で伊勢神戸城から移り、天正11（1583）年秀吉に攻められ開城する
	天正11年	1583	池田元助	天正12（1584）年小牧長久手の合戦で戦死する
	天正12年	1584	池田輝政	天正18（1590）年９月三河吉田城に移り、後に姫路城主となる
	天正19年	1591	豊臣秀勝	秀吉の養子で羽柴姓を名乗り、文禄元年朝鮮に出陣し、唐島(巨済島)で病死する
	文禄元年	1592	織田秀信	慶長５（1600）年８月徳川軍に攻められ開城 後に高野山に入り慶長10年５月死去（26歳）
	慶長６年	1601		廃城となる　天守、櫓、石垣等を加納城へ移す
明治	明治43年	1910		模擬天守建設（復興天守）
昭和	昭和18年	1943		模擬天守焼失（復興天守）
	昭和31年	1956		現在の天守閣再建
平成	平成９年	1997		再建以来初の大改修
	平成13年	2001		築城800年目を迎える
	平成23年	2011		「岐阜城跡」として国史跡に指定される
令和	令和2年	2020		信長期に築かれた天守台石垣を初めて発見

天守閣からの眺望

岐阜城は、金華山山頂に築城されているため、楼上の展望台からは眺望を楽しむことができる。

眼下には鵜飼で有名な清流長良川が岐阜市内を貫流し、東には恵那山、木曽御岳山が雄大な姿を見せ、北には乗鞍、日本アルプスが連なっている。また、西には伊吹、養老、鈴鹿の山系が連なり、南には濃尾の大平野が豊かに開け、木曽三川の流れが悠然と伊勢湾に注いでいるさまを一望におさめることができ、織田信長が天下を見晴らしたように壮大な眺望を楽しむことができる。

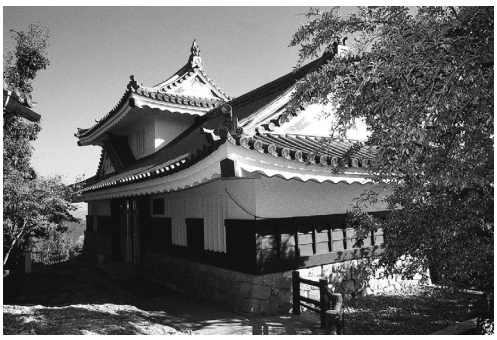
また、期間限定で夜間まで開館時間を延長する「岐阜城パノラマ夜景」では、眼下に岐阜市内の繁華街のきらめき、遠方には名古屋市の輝きを見ることができる。

天守閣からの昼間の眺望（西側）

岐阜城パノラマ夜景／天守閣からの夜間の眺望（西側）

岐阜城資料館

岐阜城のすぐ東にあるのが岐阜城資料館。昭和50（1975）年４月に昔の武器庫、食糧庫を隅櫓城郭造りに再現したもので、内部はフォトスポットになっている。



トピックス

しろっぴー

平成13（2001）年に岐阜城の築城800年を記念し誕生した。岐阜城のマスコットキャラクターで、金華山にそびえ立つ岐阜城と清流長良川をモチーフにしている。

2 岐阜公園

岐阜公園

金華山のふもとに広がる、岐阜市のシンボルともいえる公園。山麓（さんろく）の自然に包まれた公園は、面積が約20万m²におよぶ広大なものである。明治21（1888）年に開園式が行われたこの公園は、岐阜城主であった斎藤道三や織田信長のゆかりの地で、巨石を使用した通路や石垣などを保存整備した織田信長公居館跡や大規模な和風庭園の信長の庭などを見ることができる。

また、岐阜市歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館などの文化施設や御手洗池（みたらしいけ）などの史跡といったさまざまな施設があり、ゆったりと岐阜の文化、歴史、自然を楽しむことができる。公園中央には金華山山頂と公園をむすぶ、ぎふ金華山ロープウェーの山麓駅（さんろくえき）があり、ロープウェーを利用して眼下の眺望を楽しみながら山頂へ行くことができる。

岐阜公園総合案内所

岐阜公園総合案内所は、現在「信長公の鼓動（こどう）が聞こえる歴史公園」として整備を進めている岐阜公園のエントランスとして、平成21（2009）年12月に完成した。

戦国時代の武家屋敷（ぶけやしき）などを模した造りで総合案内所をはじめ、トイレや休憩所、飲食施設などが設けられている。正門前には、昭和63（1988）年市制100年を記念して岐阜市に寄贈された「若き日の信長像」が建立されており、岐阜城をバックに雄々しい信長の姿を見ることができる。

織田信長公居館跡

岐阜公園は斎藤道三、織田信長ら歴代城主の館があった場所と伝えられている。

永禄10（1567）年、岐阜に移った信長は、斎藤氏の館を大きく改修、いくつもの庭園を持った迎賓館を造り上げた。入城から２年後の永禄12（1569）年、岐阜を訪れたポルトガルの宣教師ルイス・フロイスは、その記録の中で信長の館を「宮殿」、「地上の楽園」と称し、華麗な内部の様子を紹介している。

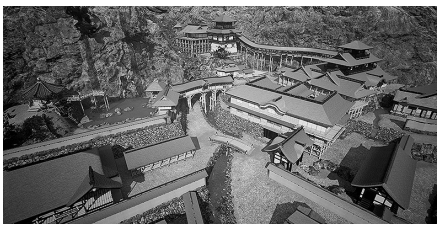
これまでの発掘調査では、高さ35mの岩盤から２本の滝が流れ落ちる巨大庭園のほか、金箔を施した飾り瓦が見つかっている。城郭で初めて金箔瓦を使用したのは安土城と言われてきたが、それを遡る最古の例として平成25（2013）年に岐阜市重要文化財に指定された。

金箔瓦は居館の中心建物の棟を覆っていたとみられるが、フロイスの記録と合わせて考えると、

その２階には奥方（＝濃姫）の部屋もあったと考えられる。

「日本遺産・信長居館発掘調査案内所」（岐阜公園来園者休憩所内）では、発掘調査結果の紹介や日本遺産、戦国時代の岐阜城を３Ｄ技術を用いてリアルに再現した「メタバース岐阜城」を行っている。

また、ホームページ（https://nobunaga-kyokan.jp）でも「メタバース岐阜城」を紹介している。



織田信長公居館復元イメージ CG

冠木門（かぶきもん）

織田信長公居館跡の玄関口にある門。館が建てられていた戦国の世の雰囲気が伝わるよう、当時の姿を想定して高さ4.2mの親柱に、両端を銅板に包んだ冠木と呼ばれる横木を貫き渡してある。

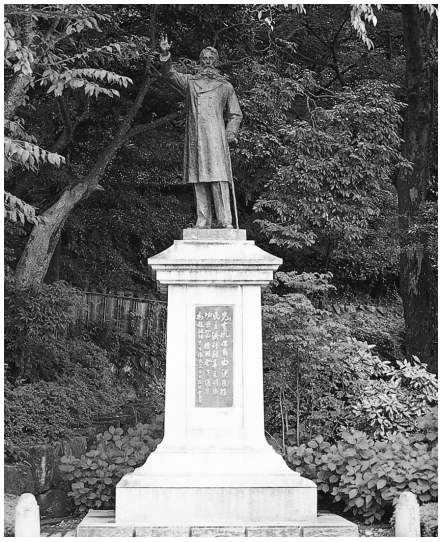
岐阜公園来園者休憩所（立礼茶席（りゅうれいちゃせき））

数寄屋風（すきやふう）のたたずまいを持ち、ホールにある水琴窟（すいきんくつ）から涼やかな音色が響く休憩所。華松軒（かしょうけん）と呼ばれる建物の中には、青翠庵（せいすいあん）と名づけられた茶室に加え、お抹茶のサービスが受けられる立礼茶席スペースもある。お菓子付きのお抹茶が一服500円で楽しめる。

板垣退助の銅像

明治15（1882）年４月６日、自由党総理・板垣退助は全国遊説の途上、岐阜に立ち寄り、現在の岐阜公園内にあった神道中教院（しんとうちゅうきょういん）で演説した。そして、玄関を出ようとしたとき、暴漢に襲われ、刺されるという事件が起きた。幸い傷は浅く生命に別状はなかったが、この事件から「板垣死すとも自由は死せず」という有名な言葉が生まれた。その後、この遭難の史実が絶えることを惜しんで、有志により銅像が建てられ、大正７（1918）年に除幕式が挙行された。この銅像は昭和18（1943）年、第二次世界大戦中の金属回収により、一度撤去された。現在のものは、昭和25（1950）年に再建された２代目。

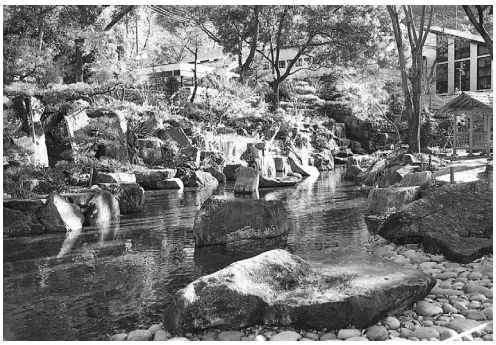
金属回収により撤去された銅像（岐阜市歴史博物館所蔵）



現在の銅像

信長の庭

織田信長の生きた戦国時代の荒々しさをイメージした和風庭園。マツ、ケヤキなどの巨木を取り込み、長良川流域の巨大な石を使った石庭で、当時の石組みの技法を用いている。「剛」「静」「雅」の３つの滝と池がおりなす庭園は、近隣にはない規模の和風庭園となっている。



山内一豊（やまうちかずとよ）・千代婚礼の地モニュメント

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑に仕えた山内一豊。数々の功績をあげ、一国の大名となった。その成功の陰には、内助（ないじょ）の功（こう）として夫を支え続けた、妻千代の存在が大きいといわれている。

二人は、岐阜の地で祝言（しゅうげん）をあげたとされており、岐阜公園内には、成功へ導いた妻千代を讃えたモニュメントが平成17（2005）年に建てられた。

ぎふ金華山ロープウェー

岐阜公園と金華山の山頂を結ぶロープウェー。四季の自然美と眼下の長良川の景観を楽しむことができる。岐阜城へは、山頂駅から徒歩８分ほどで到着する。また、期間限定で開催している岐阜城パノラマ夜景にあわせて、ロープウェーも営業時間を延長し、夜間まで運行している。

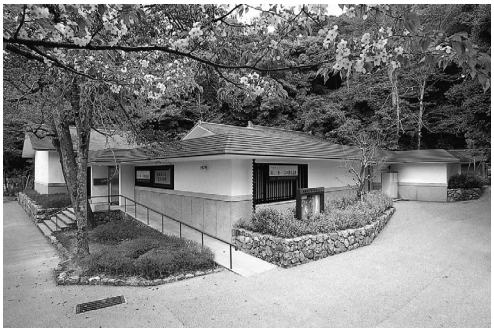
山頂駅近くには日本で最初に開園したリス村があり、人なつっこいタイワンリスが放し飼いにされており、家族連れやカップルに人気を呼んでいる。

岐阜市歴史博物館

昭和60（1985）年11月に開館し、平成17（2005）年３月に歴史を体験・体感するというコンセプトでリニューアルした。その目玉の一つは、原始から近代に至るまで歴史の面白さを体験できる場を備えたこと。「戦国ワンダーランド」では、織田信長が活躍した戦国時代の岐阜のまちなみを再現した「楽市立体絵巻」などがあり、貝ごまや双六といった昔の遊び体験や、当時の各種着物の試着など、時代に浸ることができる。また、市民の通年型ボランティア活動を導入し、その協働により体験・体感コーナーが活かされている。

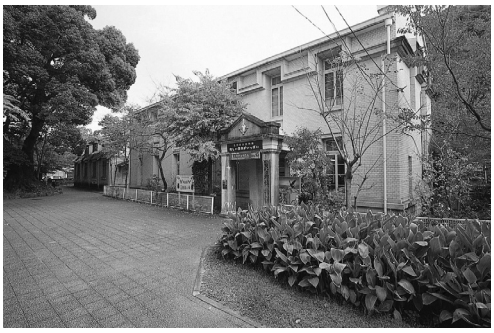
加藤栄三・東一記念美術館

岐阜市出身で日展を中心に制作活動を続けた、著名日本画家、加藤栄三・東一兄弟の作品を所蔵・公開している美術館。金華山の麓にあり、しっくいの白壁と平板瓦の屋根が、周囲の自然によくマッチしている。
※令和７年３月末まで構造補強工事のため休館。



名和昆虫博物館

国内有数の昆虫博物館で、ギフチョウの発見者である名和靖により開館。現存する国内最古の昆虫博物館である。１階はギフチョウや国蝶・オオムラサキをはじめ日本産の蝶を数多く展示、２階では外国産の珍しい昆虫も見ることができ、約12,000種、標本数30万以上を所蔵している。春には羽化したばかりのギフチョウも見ることができる。設計は、近代西洋建築の父と呼ばれる武田五一によるもの。



三重塔

岐阜公園内にある、緑樹に包まれた朱塗りの三重塔は、木造瓦葺で、高さは約22m、床面積は約29.7m^{2}である。

木造であった旧長良橋の廃材を利用し、川合玉堂の助言を得て、場所を選定したとされ、伊東忠太の考案により、大正６（1917）年11月、大正天皇御大典記念事業として建てられた。

平成29（2017）年２月末に修復整備工事が完成し、建立当初の姿に復原された。

日中友好庭園

平成元（1989）年、岐阜市と中国杭州市の友好都市提携10周年を記念して造られた庭園で、岐阜公園内の北部にある。庭園入り口の雌雄対の獅子、中国風の門・土塀・四阿などが異国情緒を醸し出している。杭州市の名所である西湖を模して造られた池が四季の風景を映し出す。春になると桜の花びらが舞い落ち、まるで水に浮かぶピンクのじゅうたんのような景色を見ることができる。

御手洗池

岐阜公園内の北部に位置し、かつてはこの池の背後の丸山に伊奈波神社があったため、この池で手を洗って参拝したのが、名称の由来とされる。

伊奈波神社は、天文８（1539）年に斎藤道三が稲葉山城（岐阜城）に居住する際に、現在の場所に遷したとされる。

慶長５（1600）年、関ヶ原の戦いの前哨戦の際、当時の岐阜城主・織田秀信（織田信長の孫）が西軍に加担したため、岐阜城は東軍の福島正則、池田輝政から猛攻を受けて落城した。その時、大勢の奥女中らがこの池に投身したという伝承がある。